不屈の「エンジン」

3月11日、土砂崩れにより一部不通となっていた南アルプスあぷとラインが、約2年半ぶりに全線開通しました。ディーゼルエンジンで渓谷を走るその赤い列車は、沿線住民から「エンジン」の愛称で親しまれ続けてきました。本号では、大きな苦難を乗り越えた「エンジン」について、関係者の思いと、今後の展望をお伝えします。

土砂崩れの概要

平成26年9月2日に閑蔵駅付近で発生し、全長約25.5㌔中、約10㌔にあたる接岨峡温泉駅～井川駅間が運休となった。復旧工事では、土砂除去後も崩土をくり返すなど、困難な作業が続いた。

写真提供：中部電力㈱大井川電力センター

❶

922日目の歓喜

千頭駅にて復旧記念式典を挙行
沿線各地でおもてなしイベントも開催

全線開通から1週間後の3月18日、あぷとラインの沿線各地では、復旧を祝う催しが開催されました。

千頭駅のホームでは、沿線の官民団体で組織する「南アルプスあぷとライン周辺地域誘客協議会」主催の記念式典が挙行され、川勝平太県知事をはじめ多くの来賓が出席して全線開通を祝いました。

式典では、同協議会会長の鈴木敏夫町長が「この町とともに歩んできたあぷとラインは、決して欠かすことのできない地域の宝。全線開通を好機と捉え、さらなる魅力発信に尽力していきたい」と、観光振興に向けた新たな決意を口にしました。

また、大井川鐵道の前田忍社長は「多くの皆さんに支えられてこの日を迎えることができた。これからも、観光客はもちろん沿線地域の皆さんにも愛される鉄道であり続けるように、努めていきたい」と関係者への感謝の思いを述べました。

式典終了後は、一日車掌を務めたシンガー・ソングライターの朝倉さやさんの笛の合図で、関係者や一般の観光客を乗せた「エンジン」が千頭駅を出発しました。

乗客は、鉄道橋として日本一の高さを誇る「関の沢鉄橋」や秘境駅として知られる尾盛駅などの唯一無二の景色を楽しみながら、約2年半ぶりに実現した鉄道の旅を堪能していました。

❷

❶赤石太鼓保存会による豪快な祝い太鼓がホームに響いた。❷テープカットとくす玉割りで祝う関係者ら。❸千頭駅には沿線住民も駆け付けて列車を見送った。❹アプトいちしろ駅では甘酒のサービスや特産品販売も。❺にぎわいを待ち続けた井川駅。住民も笑顔で出迎えた。

▶朝倉さやさん

❸

❹

❺